



商品情報多言語化の基本的な考え方

2016年7月15日

製・配・販連携協議会

商品情報多言語ワーキンググループ

(作成：一般財団法人流通システム開発センター)

目次

1. はじめに

1-1. 背景

1-2. 目的

2. 商品情報多言語化に関する基本的な考え方

2-1. 対応言語

2-2. 対象分類、アイテム

2-3. メーカー名、商品名

2-4. 商品コード、商品画像

2-5. 商品説明、規格・容量、その他の情報

3. シームレスに配慮した共通インフラ基盤の方向性

3-1. 全体概要

3-2. 情報伝達方法

3-3. データ・アクセス方法とユーザー・インターフェース

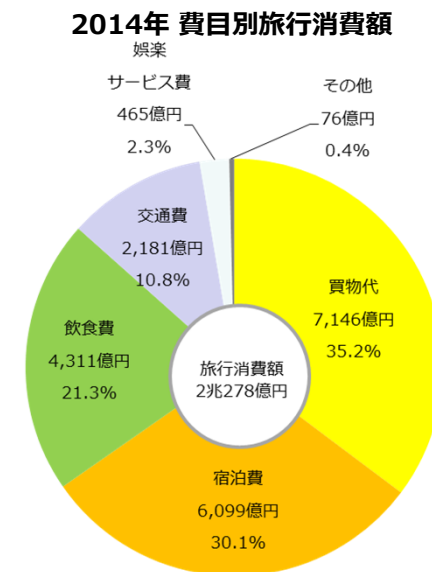
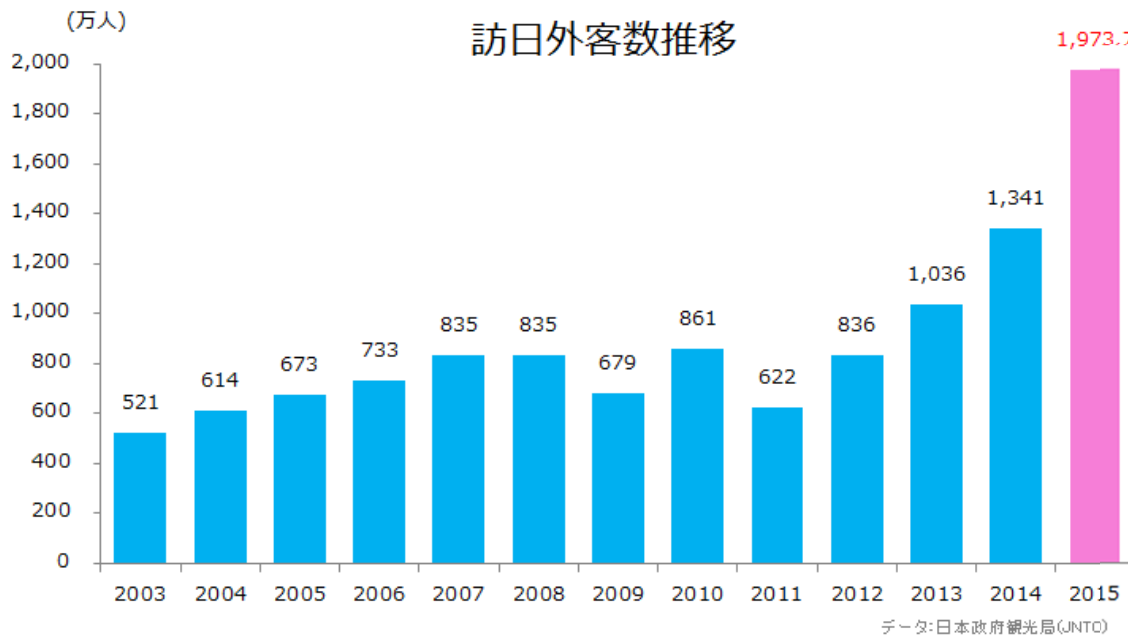
3-4. 主な課題

4. 製・配・販の役割分担

1. はじめに

1 - 1. 背景

- 訪日外国人観光客は、2015年には1,974万人に達し、「明日の日本を支える観光ビジョン」において、2020年に4,000万人、2030年に6,000万人の目標が設定された。
- 訪日外国人観光客の旅行消費額に占める買い物代の割合は、約35%を占め、訪日外国人観光客の増加に伴って、買物消費額も、大幅な増加が見込まれる。



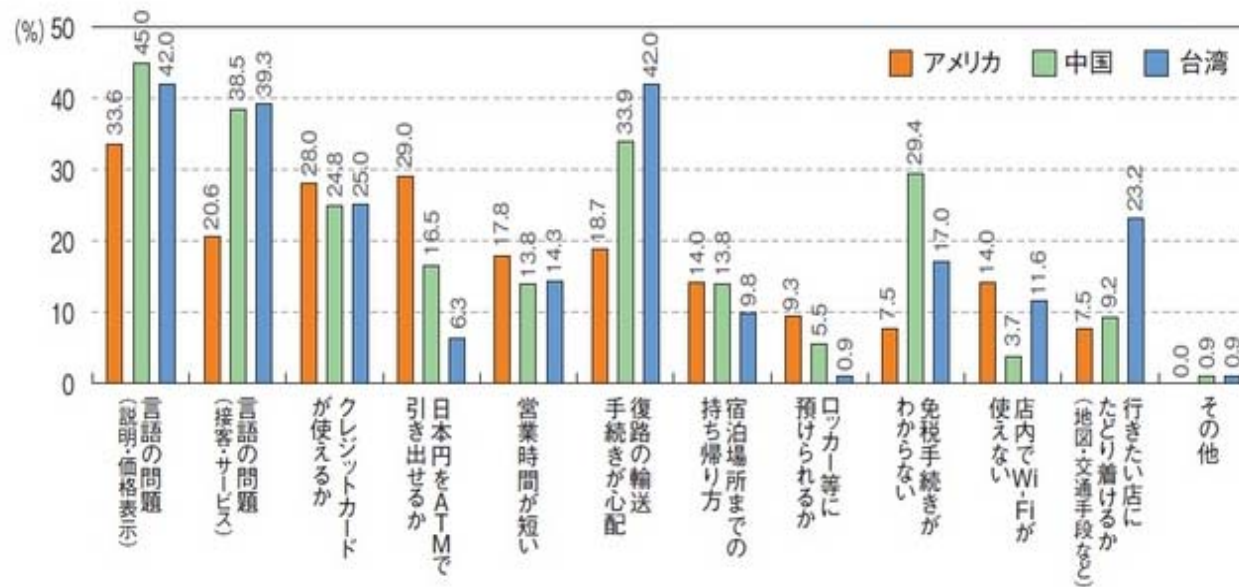
出典: 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

1. はじめに

1 - 2. 目的

- 訪日外国人観光客が増え、買物消費額の大幅な増加が見込まれる中で、訪日外国人観光客が、日本でショッピングをする際には、言語の問題（説明・価格表示）で不満や心配を感じるケースが多い。
- そこで、製・配・販連携協議会・商品情報多言語WGでは、こうした不満点を軽減し、買物需要を一層拡大すべく、商品情報多言語化に関する検討を通じて、基本的な考え方としてまとめた。

Q2 あなたが日本でショッピングした際、不満・心配だったことはなんですか(複数回答)



(出典)「販促会議」2015年1月号<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000026.000002888.html>

2. 商品情報多言語化に関する基本的な考え方

2-2. 対象分類、アイテム

- 商品分類の表示で、必要最低限の商品情報提供になる。
 - 食品か食品以外か、用途は何か、など。
 - 一般公開予定の J I C F S 分類の 4 言語翻訳例が参考にできる。
- 訪日外国人観光客の購買が多い商品分類は、服・かばん・靴、菓子類、電気製品、化粧品・香水、医薬品・健康グッズ・トイレタリーなど。
 - 上記分類内の対象アイテムから優先的に取り組む。
 - 対象分類内での対象アイテムは、競争領域として、メーカー毎に、訪日外国人に紹介したい商品として取り組む。

＜J I C F S 分類の 4 言語翻訳例＞

JICFS分類	漢字分類名(20文字)	英文	中国語(繁体字)	中国語(简体字)	韓国語
2126	衛生医療用品・用具	Medical hygiene products	衛生醫療用品・用具	卫生医疗用品/用具	보건 의료 용품
212601	綿棒	Cotton swabs	棉花棒	棉棒	면봉
212603	包帯	Bandage, dressing	繃帶	绷带	붕대
212605	ガーゼ	Gauze	紗布	纱布	거즈
212607	脱脂綿	Absorbent cotton	脫脂棉	脱脂棉	말기면
212609	救急絆創膏	First aid plasters	急救絆創膏	创可贴	구급 반창고
212611	固定テープ・巻絆創膏	Casting tape/bandage	固定用膠帶・絆創膏條	固定用胶布/弹力绷带	고정 테이프 권 반창고
212615	サポーター	Support	護具	护具	붕대
212617	マスク	Mask	口罩	口罩	마스크
212619	避妊用品	Contraception	避妊用品	避孕用品	피임 용품
212621	飲薬補助用品・用具	Product that supports the taking of oral medicine	吃藥補助用品・用具	吃药辅助用品/用具	음주 약물 보조 용품
212623	コンタクトレンズ用剤・用具	Contact lens solution/contact lens product	隱形眼鏡用劑・用具	隐形眼镜用剂/用具	콘택트 렌즈 용품
212625	目・鼻・耳ケア用品・用具	Product for eye/nose/ear care	眼・鼻・耳護理用品・用具	眼/鼻/耳护理用品/用具	눈·코·귀 케어 용품
212627	フットケア用品・用具	Footcare product	足部護理用品・用具	脚部护理用品/用具	발 관리 용품
212629	ハサミ・ピンセット	Scissors/tweezers	剪刀・夾子套組	剪刀/夹子套组	가위 핀셋
212631	体温計	Thermometer	體溫計	体温计	체온계
212633	血圧計	Blood pressure monitor	血壓計	血压计	혈압계
212635	ヘルスメーター	Health meter	體重計	体重计	체중계
212637	肩こり・腰痛ケア用品・用具	Product for the care of stiff shoulders/back pain	肩膀痠痛・腰痛護理用品・用具	肩部酸痛/腰痛护理用品/用具	어깨 결림·요통 관리 용품
212639	使い捨てカイロ	Disposable thermal pack	拋棄式暖袋	一次性暖宝宝	일회용 손난로
212641	熱冷却用品・用具	Fever cooling product	散熱降溫用品・用具	散热降温用品/用具	열 냉각 용품

2. 商品情報多言語化に関する基本的な考え方

2-1. 対応言語

■ 必須言語 <短期的な取組>

- 英語を母国語としない国々でも、英語を理解できる人は多いため、日本語 情報からまず、日本語特有の言い回しを除き、英語版の情報を作成する。

■ 準必須言語 <中・長期的な取組（1）>

- 訪日外国人の使用言語の上位は、中国語、英語、韓国語で全体の約9割を占めることから、英語版の情報をもとに、中国語（簡体語／繁体語）、韓国語への翻訳を基本とする。英語版から、各国語への翻訳は、自動翻訳の支援も考えられる。但し、自動翻訳の場合は、自動翻訳である旨の注記を表示する。
- メーカーが、中国語（簡体語／繁体語）、韓国語、その他の言語が作成可能であれば、それを優先する。

■ 任意言語 <中・長期的な取組（2）>

- 地域特性（例：タイ人韓国客が多い）への対応、他言語対応（タイ語、マレー語、フィリピン語、ドイツ語、フランス語など）は、オプション（競争領域）とする。

2. 商品情報多言語化に関する基本的な考え方

2-3. メーカー名、商品名

■ <メーカー名>

- 日本語企業名をベースに、各国語の企業名がある場合は、当該企業名を表記する。ない場合は、日本語企業名のアルファベット表記を基本とする。

- <事例> (日本語) 石屋製菓、
(中国語：繁体字) 石屋制菓、(中国語：簡体字) 石屋制菓、
(韓国語) 이시야제과、(英語) Ishiya、(タイ語) Ishiya Seika

■ <商品名>

- 日本語商品名をベースに、各国語の商品名がある場合は、当該商品名を表記する。ない場合は、日本語商品名のアルファベット表記を基本とする。登録商標にも配慮する必要がある場合は、日本語表示のままとする。

- <事例> (日本語) 白い恋人、
(中国語：繁体字) 白色恋人、(中国語：簡体字) 白色戀人、
(韓国語) 시로이 고이비토、(英語) Shiroi Koibito、
(タイ語) Shiroi Koibito

2. 商品情報多言語化に関する基本的な考え方

2-4. 商品コード、商品画像

■ <商品コード>

- G T I N (J A N / E A N / U P Cコード) を基本とする。

■ <商品画像>

- 最新の正面画像を基本とする。
- 側面画像や、裏面情報画像は、オプション（競争領域）とする。

<参考> 運用ガイドライン ～ネットスーパーに関わる商品画像データ交換の標準運用について～

標準化項目	標準仕様（規格）	補足事項
画像カット	原則、正面	ただし、商品の判断に悪影響を与えてしまう場合には、この限りではない
画像サイズ	500×500 P i x（正方形）	
解像度	7 2 dpi	
保存形式	J P E G	
カラーモード	R G B	
背景色	原則、白	ただし、商品の色彩に悪影響を与えてしまう場合 （例 商品自体の色彩が白）には、この限りではない （現状、日用品・医薬品業界では黒が基本）
保存ファイル名	J A Nコード. j p g	（複数画像の取り扱いの場合には、J A Nコード_連番. j p gとする） ただし、生鮮品などの場合には、自社コード. j p gを可とする

2. 商品情報多言語化に関する基本的な考え方

2-5. 商品説明、規格・容量、その他の情報

■ <商品説明>

- 商品分類では、表せない商品の特徴を必要に応じて簡潔に表記する。
- その他、詳細な商品説明や、原材料など詳細な情報は、オプション（競争領域）とする

■ <規格・容量>

- 表示する必要がある場合は、商品に応じた「単位」を明記する。
- 商品により、必要に応じて、容量（ml）、サイズ（mm）、重量（g）等

■ <その他情報>

- 成分表示、アレルギー情報等については、オプション（競争領域）とする。
- 医薬品の添付文書等の業界固有情報については、既に、公開の仕組みがあるため、家庭薬協会等の業界団体の検討に任せる。
- ハラル等の宗教上の問題については、検討の範囲外とした。

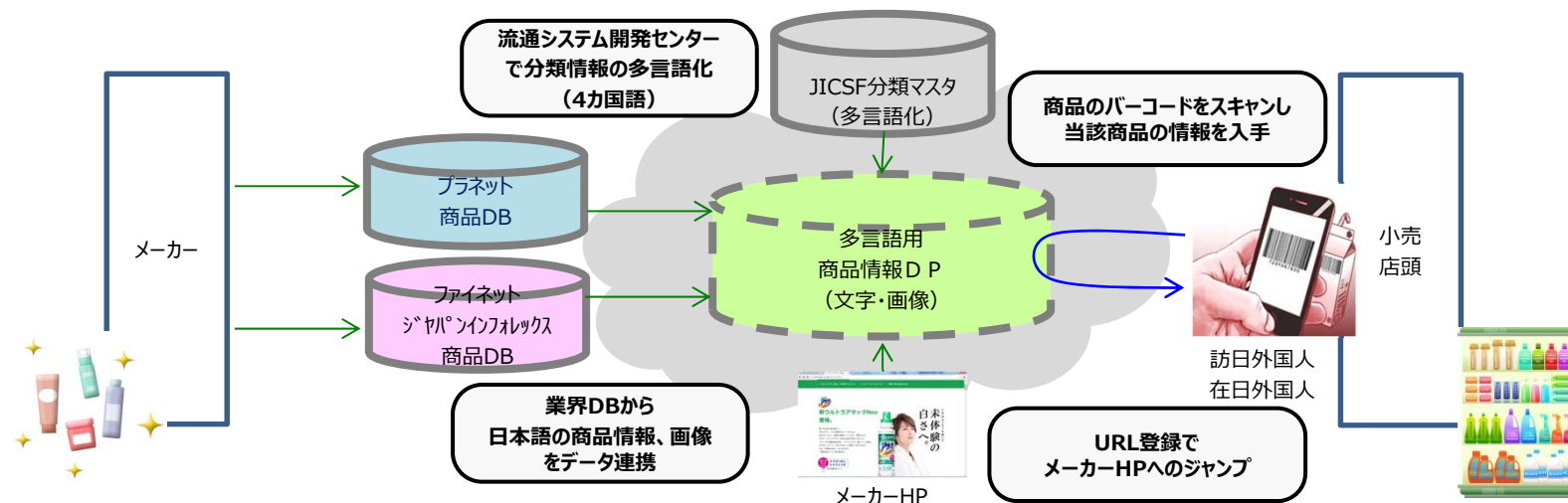
3. シームレスに配慮した共通インフラ基盤の方向性

3-1. 全体概要

■ 商品情報の一元管理の重要性

- 情報の正確性を維持するためには、商品メーカーの登録する情報を起点にすることが重要。
- 商品コードや商品名などの情報は、企業規模や業種を問わず共通性のある情報であり、一元的に管理したうえで各社で利用することにより、各社の作業負荷軽減が期待できる。

- 以下の共通インフラ基盤は、あくまでも方向性案であり、具体的には、実証実験を経て、詳細に検討される予定。

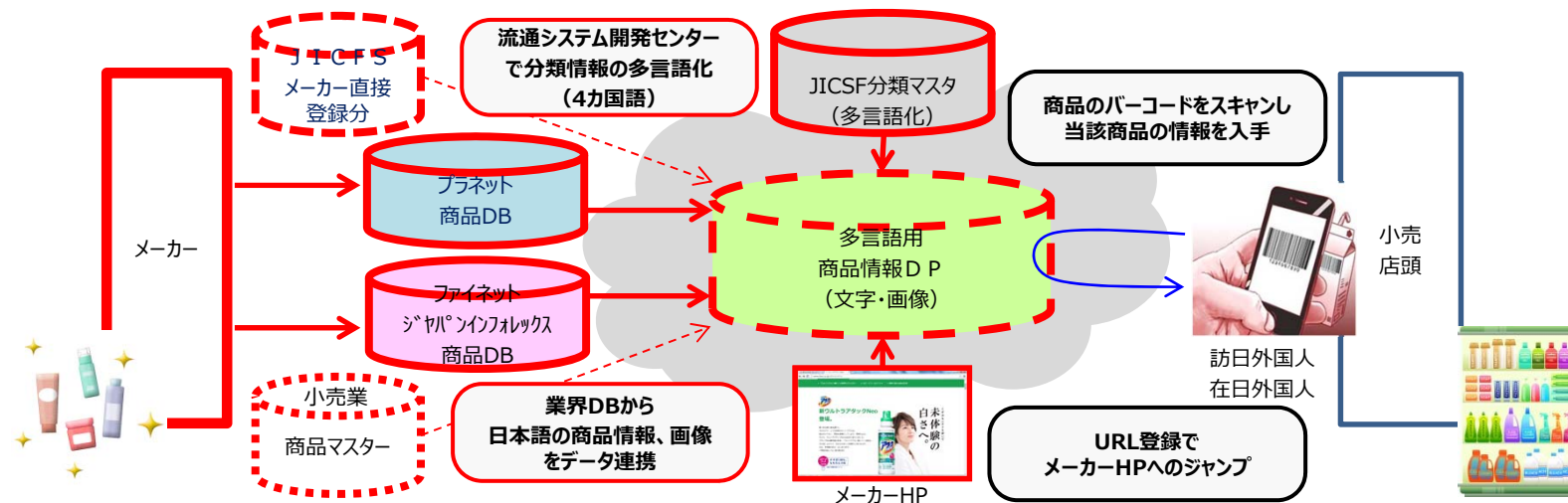


3. シームレスに配慮した共通インフラ基盤の方向性

3-2. 情報伝達方法

■ 業界DBとの連携を前提

- 商品メーカーが商品情報を登録する既存の業界データベース（プラネット商品DB、FDB）を起点とする
 - 業界データベースから日本語の必要項目・画像をデータ連携させた多言語用商品情報データプールを構築
 - 商品分類を多言語化されたJICFS分類をもとに、4言語表示
 - 詳細な情報は、メーカーの商品情報ホームページにリンク
- さらに、JICFSメーカー登録分や、小売業の商品マスターの取り込みなどによって登録商品の網羅性を高めることなども検討する必要がある



3. シームレスに配慮した共通インフラ基盤の方向性

3-3. データ・アクセス方法とユーザー・インターフェース

■ モバイル端末を活用

- 訪日外国人の多くが持参していると想定されるスマートホンなどのモバイル端末を活用

■ バーコードを活用

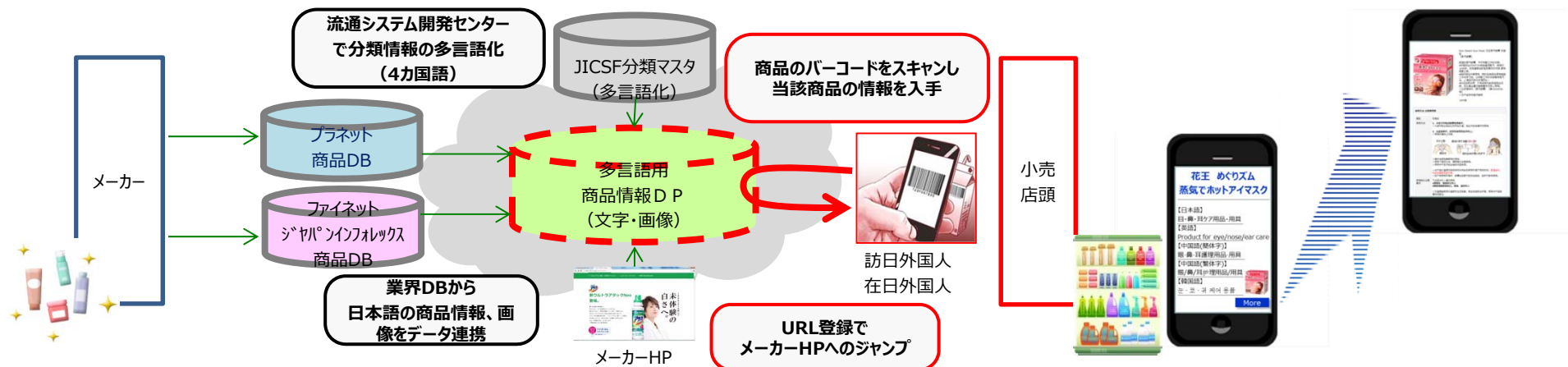
- モバイル端末用アプリで、商品に印刷されているバーコード（JANコード）をスキャンし、多言語用商品情報データプールにアクセス

- 但し、本番運用に向けて以下のような課題を解決することが前提

- 小売店舗内でのフリーWi-Fi対応
- モバイル端末用アプリの開発・更新、普及推進

- 情報提供内容

- 段階1では、日本語の商品名、商品画像、商品分類の4カ国語表記と、多言語ページがある場合、メーカーホームページへのURLリンクを予定。段階2では、情報提供内容の拡大を想定。



3. シームレスに配慮した共通インフラ基盤の方向性

3-4. 主な課題

■ 第1段階

- 必要最低限の情報内容 : 商品名、商品分類、商品画像など
(何のカテゴリの商品か?)
- 収集可能な範囲での登録アイテム数 : 業界データベースの活用
+ 登録アイテム数の拡大! : 小売業の商品マスターの取り込みなど
- 多言語ページがあるメーカーホームページへのURLリンク



■ 第2段階

- 情報内容の拡大! : 商品特徴、使用方法、使用上の注意など
- 業界データベースへの登録数の拡大!
- 多言語ページがあるメーカーホームページへのURLリンクの拡大!
- アクセス結果から得られる情報を、参加各社のマーケティングに活用!



- 実証実験を経て、今後の具体的なスケジュール化の予定

4. 製・配・販の役割分担

■ 商品メーカーの役割

- 業界データベースへの正しい商品情報・画像のタイムリーな登録
- さらに、各社ホームページで、商品情報の多言語化を推奨する

■ 卸売業役割

- 商品メーカーへの業界データベースへの商品情報登録の働きかけ

■ 小売業の役割

- 訪日外国人旅行者／在日外国人の対応

- 増え続ける訪日外国人旅行者に対し、不満のない買物環境を提供するためには、オール・ジャパンでの取り組みが必要である。
- その一つとして、商品情報の多言語化は、幅広い商品の中から、日本の商品を正しく選択し、購入して頂くためにも重要な取り組みである。
- 製・配・販事業者は、それぞれの立場から取り組みつつ、連携した取り組みに対しても協力し合うことが望まれる。